

日本コンベンション研究会設立記念

国際観光 コンベンションフォーラム 2009 in 松江 & 米子

主 催
日本コンベンション研究会

主 管
NPO法人コンベンション札幌ネットワーク

後 援
観光庁、日本政府観光局(JNTO)
日本コングレス・コンベンションビューロー(JCCB)
財団法人くにびきメッセ
財団法人とっとりコンベンションビューロー¹
財団法人札幌国際プラザ
財団法人金沢コンベンションビューロー²
山陰文化観光圏

開催にあたって

2008年10月、業界念願の観光庁が発足。観光立国の実現に取り組む体制を整えるとともに、国を挙げて観光立国を推進することを内外に強くアピールしていくこととなりました。またサミット日本開催年として、7月の北海道洞爺湖での首脳会合を始め、全国各地でG8関係会議が開催されるなど、2008年は国際コンベンションが脚光を浴びる年ともなり、日本の観光コンベンションが新たなステージへと進み始めたのです。

このような状況を捉え、観光コンベンションにおける産学官の連携促進と課題研究を行う地域からの発信組織として「日本コンベンション研究会」を立ち上げることとし、その設立記念イベント「国際観光コンベンションフォーラム2009 in 松江&米子」を開催いたします。

今、観光コンベンション振興のカギは、地域力の発揮です。地域が持つ力をあらためて検証・議論し、観光コンベンションの未来を探ります。



©Shimane Prefecture/©JNTO

創客・創流

観光コンベンションと地域の未来～創客・創流の時代へ

2009年 3月10日(火)・11日(水)

松江会場 くにびきメッセ

米子会場 米子コンベンションセンター



14:00 開会

主催者あいさつ

石森 秀三 (いしもり しゅうぞう)

日本コンベンション研究会会長

北海道大学 観光学高等研究センター長・大学院観光創造専攻長(教授)



1945年生まれ、神戸市出身。甲南大学経済学部卒業。ニュージーランド・オークランド大学大学院に留学後、京都大学人文科学研究所研究員、国立民族学博物館教授および研究部長などを経て、2006年4月から現職。放送大学客員教授。観光文明学、文化開発論、博物館学専攻。観光立国懇談会委員(内閣府)、ラグジュアリー・トラベルマーケット調査委員会委員長(経済産業省)、文化審議会専門委員(文化庁)、YOKOSO!JAPAN大使選定委員会座長(国土交通省)などを歴任。第2回大平正芳記念賞受賞。著書に『観光の20世紀』(ドメス出版)など。

地元歓迎あいさつ

松浦 正敬 松江市長

基調講演

『アートによる‘創客・創流’～直島そして金沢から』

瀬戸内海に浮かぶ「アートの島」直島。「家プロジェクト」「地中美術館」をはじめ15年にわたるベネッセアートサイト直島での様々な活動、さらに現代アートに新たな展開を示した金沢21世紀美術館をステージとした実践経験の中から、地域創造に向けてアートが持つ力や可能性について語っていただきます。



© CHISATO HIKITA

秋元 雄史 (あきもと ゆうじ)

金沢21世紀美術館館長

1955年東京都生まれ。東京芸術大学美術学部絵画科卒業。91年から2004年6月まで、(株)ベネッセコーポレーションに勤務。美術館の運営責任者として国吉康雄美術館、ベネッセアートサイト直島(旧・直島コンテンポラリー・アートミュージアム)の企画、運営に携わる。ベネッセアートサイト直島では、97年から2002年まで直島・家プロジェクト(第一期)を担当。主な展覧会は、「直島スタンダード」展、「直島スタンダード2」展など、街中の民家、空家、路上など直島全体を会場とした屋外型美術展の開催。

92年～2004年までベネッセアートサイト直島、チーフキュレーター。04年～06年12月まで地中美術館館長／(財)直島福武美術館財団常務理事、ベネッセアートサイト直島・アーティスティックディレクター。07年より現職。

パネルフォーラム

『観光コンベンションと地域の未来～創客・創流の時代へ』

「創客・創流」をキーワードに、日本における観光コンベンションの目指す方向や地域の課題と取組み、アジアを始めグローバルな視点で今後の予測などを論議していく中から、地域の未来に活力をもたらす観光コンベンションの新たな展開を模索します。

●コーディネーター

長谷川 泰二 (はせがわ たいじ)

財団法人とっとりコンベンションビューロー専務理事



1946年生まれ、米子市出身。早稲田大学卒。財団法人鳥取県観光事業団副理事長、財団法人鳥取県文化振興財団理事、鳥取県・島根経済同友会合同委員会副委員長、鳥取県立技術専門校マーケティング講師、NPO法人子ども未来ネットワーク理事、NPO法人青少年メディア研究協会理事。山陰文化観光圏事業推進の鳥取県側コーディネーター担当。

●パネリスト

大滝 昌平 (おおたき しょうへい)

観光庁国際会議担当参事官



1958年生まれ、函館市出身。83年東北大学大学院情報工学専攻・博士前期課程を終了し、通商産業省入省。青森県商工労働部工業振興課長、中部通商産業局総務企画部総務課長、環境立地局環境指導室長を経て2001年日本貿易保険営業第一部アジア大洋州グループ長、03年中部経済産業局産業振興部長、05年原子力安全基盤機構企画部企画グループ長、08年国土交通省総合政策局観光経済課長、観光庁発足の同年10月より現職。

桑田 政美 (くわた まさよし)

京都嵯峨芸術大学芸術学部観光デザイン学科教授



1947年生まれ、鳥取県出身。関西学院大学大学院博士課程前期課程修了。大手旅行会社にて「海と島の博覧会」、各種大型イベント等のプロデュース、京都市観光振興基本計画策定等自治体の観光活性化・コンベンション振興事業に携わる。現職においては、日本イベント大賞審査委員、「日本風景街道・近畿地区協議会」委員(国交省)、「サラゴサ万博」政府出展アドバイザー(経産省)等を務める。日本観光研究学会副会長、イベント学会会員、日本イベントプロデュース協会評議員。著書に『観光デザイン学の創造』(編著)、『イベント学のすすめ』(共著)等。

高橋 一清 (たかはし かずきよ)

(社)松江観光協会・観光文化プロデューサー



1944年生まれ、島根県益田市出身。早稲田大学第一文学部卒業後、(株)文藝春秋に入社。出版部部長、「別冊文藝春秋」編集長、「文春文庫」部長など勤める。その間、(財)日本文学振興会理事・事務局長として、芥川賞、直木賞、大宅宣一ノンフィクション賞、松本清張賞、菊池寛賞の運営にたずさわる。芥川賞・直木賞作家を最も多く文壇に登場させた編集者と言われる。2005年より現職。著書に『編集者魂』『あなたも作家になれる』、編著書に『メヒコで百年』『松本三四郎』『石見観光事典』『和の心 日本の美』『松江』。

18:00～ 交流会

9:00～ラウンドテーブルミーティング

実務家、有識者、研究者の議論にフロア参加者も加わり、課題に迫ります。

第1分科会

『地域力～コンベンション地域コーディネーターの役割』

これからのコンベンションの命運を分けるのは「地域力」。地域をコーディネートする力が求められています。地域のPCOやコンベンションビューローがその任を担えるのでしょうか。

●コーディネーター

細野 昌和 (ほその まさかず)

北海商科大学商学部観光産業学科 准教授



1954年生まれ、札幌市出身。東北大学大学院情報科学研究科専攻博士後期課程修了。博士(情報科学)。85年株式会社エセック(のちのたくぎん総合研究所)入社。北海道観光経済効果調査を企画・実施。現在も5年ごとに同じ調査枠組みで継続実施されている。また各地の観光ビジョン、地域づくり調査を手掛けた。93年北海学園北見大学(現北海商科大学)に移り、観光産業学科の担当となる。現在は北海道の国際観光と情報提供インフラおよびソフト的なシステムについての調査研究に取り組んでいる。

●スピーカー

羽根 由 (はね ゆう)

株式会社生活ネット研究所・株式会社PCO 代表取締役



富山県出身。1991年広告企画・制作会社(株)「生活ネット研究所」設立。富山県「まちのかおづくり事業」富山事務所として広報担当。富山芸術文化ホール「オーバード・ホール」の広報計画・企画・制作、とやま自遊館(800人ホールなどの複合施設)のVI計画・制作に携わる。99年より富山国際会議場の企画営業および誘致営業・業務を受託し、現在にいたる。2003年コンベンション運営に特化した、株式会社「PCO」を設立。富山県広報アドバイザー、富山県特産品アドバイザー、富山県ウエルカム・サイン検討委員会委員、富山駅周辺景観デザイン検討委員、富山市観光実践プラン策定委員など。

渡辺 厚 (わたなべ あつみ)

立教大学観光学部兼任講師／株式会社情報伝達研究所 代表取締役



1951年生まれ、東京都出身。慶應義塾大学理工学部修士課程修了。90年情報伝達研究所を設立し現在に至る。ビッグパレット福島、富山国際会議場、新潟朱鷺メッセ等の計画、設計に参画。JCCB経済波及効果予測ハンドブックを監修。東京ミッドタウンホール&カンファレンス開設準備室チーフプロデューサー、開業後も運営業務を受託、現在に至る。公職に静岡県コンベンション誘致推進事業アドバイザー、日本展示会協会理事・人材委員会委員長など。2000年より東京工業大学工学部社会工学科非常勤講師(コンベンション都市論)、01年より現職(コンベンション産業論)。

第2分科会

『着地型観光の未来を語る』

地域観光が生き残っていくためには、「本物」の着地型観光を提供していかなければなりません。そのためには何を考え、どう作り出していくべきか。各地の仕掛け人が語ります。

●コーディネーター

大澤 健 (おおさわ たけし)

和歌山大学経済学部准教授



1966年生まれ、岩手県出身。93年東北大学大学院経済学研究科博士課程後期修了、博士(経済学)。95年和歌山大学経済学部に赴任し現在に至る。和歌山県を中心として、観光による地域活性化について研究を行っている。地域のありのままの魅力を活かした観光を展開するためには、「人材」の育成が不可欠であるという考え方から、「ニューターリズム人材養成講座」等の講師を務めている。現在は、地域づくり、マーケティング、流通を含めて、「着地型観光」の全体像についての研究を行っている。著書に「田辺市観光アクションプラン」(2006)、「ニューターリズム人材養成講座テキスト」(2008)など。

●スピーカー

石村 隆男 (いしむら たかお)

NPO法人大山中海観光推進機構理事長



1957年生まれ、米子市出身。大山山麓観光推進協議会の情報発信事業「大山王国」を99年に立ち上げ、大山圏域の様々な活性化策(ソフト事業)に取組む。2002年度、国交省のリゾート地域チャレンジプログラムに「大山ミュージックリゾート構想」が採択され以後、大山の音楽プロジェクトの推進も。05年NPO法人大山中海観光推進機構を設立し理事長。08年度 内閣府「地方の元気再生事業」に「大山パークウェイ構想」が採択され広域エリアでの活性化事業を展開。とっとり花回廊・営業プロジェクトマネージャー兼務。

辻 孝和 (つじ たかかず)

松江市観光振興部 観光振興担当参事



1955年生まれ、和歌山県出身。関西大学法学部卒。78年日本交通公社入社、外人旅行事業部、JTBニューヨーク支店、JTB中国四国営業本部(情報企画・事業開発担当)勤務。99年JTBサンフランシスコ・ペイエリア支店長。2002年から5年間イベント関連のグループ会社JCOMIに勤務し、愛知万博海外パビリオン運営業務、農水省農林水産物等輸出促進事業、国交省VJC事業など様々な事業を担当。06年中国運輸局観光まちづくりアドバイザー、日本イベント業務管理者協会広島支部長。07年から松江市「松江開府400年祭」事業開始に合わせ、島根県松江市へ観光振興担当参事として出向、現在に至る。

9:00～ラウンドテーブルミーティング

第3分科会

『地域資源の可視化～成功事例に学ぶ』

地域の資源を可視化することは、観光コンベンション活性化の有力な手段ではありますが、実現への道のりは遠くけわしい。地域の独自性・アイデンティティを高めた成功事例に学びます。

●コーディネーター

野田 邦弘（のだ くにひろ）

鳥取大学地域学部地域文化学科教授（文化政策、創造都市論）



1951年生まれ、福岡市出身。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。横浜市職員として文化行政を主に担当する。2003年には横浜市の新しい都市政策「クリエイティブシティ・ヨコハマ」の策定に関わり、2004年に新設された「文化芸術都市創造事業本部」で横浜トリエンナーレ2005等を担当。あいちトリエンナーレ2010実行委員、文化経済学会理事（元理事長）、日本文化政策学会理事、演劇人会議評議員、（財）鳥取県観光事業団理事など。著作は、『創造都市横浜の戦略』（学芸出版社）、『入門文化政策』（共著、ミネルヴァ書房）、『イベント創造の時代』（丸善）など。

●スピーカー

仲野 義文（なかの よしふみ）

石見銀山資料館館長



1965年生まれ、広島市出身。財団法人鉄の歴史村地域振興事業団学芸員を経て、93年から石見銀山資料館学芸員となる。2007年から現職。石見銀山遺跡調査活用委員会委員。石見銀山や出雲地方のたら製鉄の研究をする一方で、これらを活かした町づくりにも関心をもつ。『銀山社会の解明—近世期石見銀山の経営と社会—』（清文堂）、『街道の日本史 出雲・石見銀山街道』（吉川弘文館、共著）TVS世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」（監修）。

柳田 知身（ますだ ともみ）

水木しげる記念館館長・境港市観光協会会长



1941年生まれ、広島県呉市出身、63年北海道大学法学科卒業。同年日本通運（株）に入社し、90年徳山支店長、93年日本海運（株）常務取締役広島支店長、95年境港海陸運送（株）社長。境港商工会議所副会頭、鳥取県地方労働委員会使用者委員等を歴任し、04年より境港市立水木しげる記念館館長、境港市観光協会会长、境港商工会議所参与、05年より（財）鳥取県観光事業団理事、07年より経済産業省地域中小企業サポート。

11:30～総括

●報告 各分科会コーディネーター

12:15～エクスカーション（オプション①）

松江城他を車窓から→大根島・由志園 昼食・視察→
境港市 水木しげるロード・水木しげる記念館 視察→米子

米子会場

16:00～米子ミーティング

『コンベンションの今後を探る～業界・ビューロー…』

コンベンション業界を取り巻く環境は、年々厳しさを増しています。自立的な力を身につけるためには、どう取り組んでいけばよいのか。ビューローの活動基盤の確立、地元企業の連携・協働などの課題に全国の知恵を結集します。

●ファシリテーター

久松 伸一（ひさまつ しんいち）

株式会社イベント・コンベンション・プロ MICEアドバイザー



1951年生まれ北海道江部乙町出身。専修大学経済学部卒。卒業後建具メーカーに就職するも2年で退社し、渡英。以後様々な事をしながらおよそ70カ国を放浪。85年に帰国後、翻訳・通訳・コンベンション業務に従事。北海道洞爺湖サミット関連イベント、FISノルディックスキー世界選手権札幌大会や長野オリンピックなどの国際冬季競技大会通訳コーディネーターを歴任。現在は「地域イベント・コンベンション支援」をテーマに活動をしている。NPO法人コンベンション札幌ネットワーク 副代表幹事。

18:00～懇親会（オプション②）

日本料理「美さご」 米子市朝日町47

（米子コンベンションセンターから送迎バスで移動）